

わがまちまごめ

馬込管内世帯人口数 (令和6年12月1日時点)	
・世帯数	31,858
・人口(男)	28,152
・人口(女)	29,216
・人口(計)	57,368

発行 地域力推進馬込地区委員会
事務局 馬込特別出張所
〒143-0027 大田区中馬込3-25-5
☎(3774)3301(代)
ホームページアドレス(大田区役所大森地域)
<http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html>

馬込第二小学校 発見！ 魅力いっぱいわがまちマップ — 六年生がチャレンジ！

今年度、馬込第二小学校の六年生は、馬込の魅力を探して皆に伝えるため、「総合的な学習の時間」を使い、馬込のマップを作ることになりました。まずは学級の中で、話し合いです。

毎日の通学路の途中で、ここは何だろうと気になっていったものや、自分は注意していなかったが、友達から言われて気がついた場所などが次々と、話し合う中で出てきました。あげられた場所が地図でどこに当たるのかを調べたりしているうちに、だんだんと候補が絞られてきます

九月の半ばには、候補にあがった歴史的な建物や碑、昔から伝わる地名を持つ場所などに、皆で行って見ることにしました。現地に行くと見ると、よく知っているはずの馬込なのに、思いがけないものに出会うことが出来て、良い経験になりました。

次に「出前授業」が地域からの講師を迎えて行われました。二学級ある六年生は、地域情報紙「わがまちまごめ」編集委員と合同の授業を体育館で行い、郷土博物館学芸員の方とは学級ごとに教室で実施しました。それぞれ、候補にあがったものの魅力を伝えた上で、解説を聞き、皆からの質問も重ねて、まとめ発表会を行いました。

情報を集める中で、これまで学んだ地域の魅力を効果的に伝えるためにはどうしたらよいかを考え、二つのチームをつくることにしました。
一つは、ふだんの授業でも使ってい



るタブレットを利用して撮影・編集も行い、動画にまとめる「動画チーム」。

もう一つは、見た人が実際に行きたいと思えるような見出しやキャッチコピーをマップにまとめて作成する「マップチーム」。

この二つに分かれて、チームのリーダーを中心に、調べたことをまとめていきました。その結果、次のものがマップに採り上げられました。

- 北野神社
 - 富士講灯籠
 - 庚申塔(一つの学級は北野神社境内にある笠付きの珍しいものを、もう一つの学級は今では貴重な、道路の脇に置かれたものを採り上げました。)
 - 磨墨塚
 - 大倉山公園
 - 阿部正弘別邸跡
- ここまでは二学級とも共通のもの。次はそれぞれの学級でのものです。
- 右近坂 ○白田坂 ○不動堂
 - 山王熊野神社(学区外ですが、馬込から新井宿に抜ける途中にあって、馬込第二小児童にはおなじみのもの。)

マップと動画は馬込第二小の児童に公開され、大田区教育委員会から動画編集の技能が高いと評価されたとのこと。マップは、郷土博物館と大田区馬込特別出張所に置いてもらうようお願いするそうです。

馬込の小学生が、自分たちの力で、郷土馬込の魅力をまとめ上げた成果を味わってみたいかがでしうか。

馬込の小学生が、自分たちの力で、郷土馬込の魅力をまとめ上げた成果を味わってみたいかがでしうか。



第35回馬込文士村大桜まつり

4月6日(日) 12時〜 雨天決行

会場 桜並木通り、桜並木公園

流し踊り、阿波踊り、模擬店等

今年も会場で桜まつり俳句を募集。

応募方法 当日10時〜15時

桜並木公園内の本部前に設置される投句箱へ。用紙は自由。

わがまちのかわら版

— 地域情報紙わがまちまごめができるまで —

地域情報紙「わがまちまごめ」を読んで頂きありがとうございます。

この情報紙は、地域に関する生活、歴史、文化などの情報を通して、人々の連帯感を育て、より深く愛着と関心をもつていただくことを目的に発行しています。

創刊号の発行は、平成3年9月1日です。33年の歳月が流れ、今号で134号となりました。今回はこの情報紙のできるまでと皆様の所に届くまでを紹介したいと思います。

◎組織と役割について

・実行委員会

発行の主体は地域力推進馬込地区委員会です。直接編集会議に参加しませんが、実行委員会として、情報紙の責任を持ち、発行の援助を行うとともに公正・公明な記事にするための助言を行います。また、地域力推進委員は地区の通信委員として情報提供、取材協力を行っています。運営に携わる機関で、年一回会合を開き地域情報紙合同委員会を実施しています。

出席者は馬込地区の連合会長、連合副会長、編集委員です。

この会では、情報紙の進捗状況の報告があり、質疑応答、情報交換が交わされます。

・編集委員

現在編集委員は7名です。

- ・松本 堯(北野町会) 編集長
- ・鈴木百合子(宮ノ下町会)
- ・芳野 慎一(西二丁目町会)
- ・今井 哲男(宮ノ下町会)
- ・薄根 幸(南馬込中和会)
- ・内藤智恵子(白田坂親和会)
- ・富岡 治子(馬込平張町会)

また事務局として馬込特別出張所職員の方が何人か参加しています。芳野編集委員は写真撮影も担当しています。

編集委員は、馬込全地域から参加されることが理想ですが、現在は以上の通りです。

◎情報紙作成の流れ

・編集会議



紙面①

地域情報紙「わがまちまごめ」
令和6年度の進行記録と予定

【132号】(秋号)

6月3日 第1回編集会議

以下毎週2～5回編集会議

「6月24日 合同委員会開催」

7月8日 第6回最終編集会議

7月10日 完成原稿を実行委員に送付

印刷所(福祉工場)に原稿持ち込み

(入稿)

7月16日 初校出、印刷所より受け

取り、初校校正会議

7月17日 印刷所に初校戻・届

7月22日 二校校正会議・戻

7月31日 最終校出・校正の終了

8月1～14日印刷(福祉工場)

8月15日 完成、受取に行く

8月16日 出張所が町会へ配送

9月1日 発行

【133号】(冬号)

9月2日 第1回編集会議

以下毎週2～5回編集会議

10月7日 第6回最終編集会議

10月9日 完成原稿を実行委員に送付

印刷所に原稿持ち込み(入稿)

10月9日 初校出、印刷所より受け

取り、初校校正会議

10月15日 印刷所に初校戻・届

10月21日 二校校正会議・戻

10月31日 最終校出・校正の終了

11月1～13日印刷(福祉工場)

11月14日 完成、受取に行く

11月15日 出張所が町会へ配送

12月1日 発行

【134号】(春号)

11月25日 第1回編集会議

編集会議は7名の編集委員と、馬込特別出張所の職員数名が参加し、行います。場所は馬込特別出張所で、原則として週1回約2時間行っています。(発行までは編集会議が6回、校正の2回を加えると8回(8週連続)になります)会議の主なものは、テーマの設定、執筆者の割り振り、原稿が集まると内容の検討、それを元に割付、構成を話し合います。

・取材方法と記事の内容

取材方法は記事の内容によって違いますが、インタビュー形式の取材と編集委員が実際に体験を通して記事にする場合があります。

インタビュー形式では、『馬込のお店の今昔』(紙面A)、『大田区大使に聞く』などの記事です。

実体験を通した記事では、『実地踏査の、『散歩道シリーズ』や内川を扱った『幻の川の流れに沿って』などです。

また、一つのテーマを編集委員全員が、手分けをし、取材することもあります。『馬込の狢犬散歩』(紙面B)『馬込の公衆トイレ』(紙面C)『馬込いろはかるた』などです。

情報が他から寄せられる事もあり、『高尾山に残る馬込の名を訪ねて』(紙面D)の記事は馬込在住の方からの一報でした。早速編集委員が現地に赴き記事にしました。

編集会議の中では、生活に密着した話題も多くなります。

記事の中で比較的多いのは編集委員が、日常生活の中で、感じたこと、目についたこと、考えたことを元にした生活関連の記事です。

突然の災害を想定した話題から、『付けましたか「住宅用火災報知器」』『馬込の公衆トイレ』『公衆電話』『AEDの設置』などの記事が生まれました。

地域の公園にあるトイレの数や、形態を調べ、機能性をもつトイレに納得し、意外に少なくなった公衆電話に驚かされたものでした。

毎年6月に発行される情報紙は(平成18年から)『馬込文士村大桜まつり』の際に詠まれた俳句の入選作品を掲載しています。

身近にあるニュースは『馬込情報』というコーナーで取り上げています。

地域にある公共施設や、自治会、町会が行う独自の催し物、行事を、取材し、情報提供をしています。

その他、各分野で活躍された功労者表彰の紹介、特殊詐欺撲滅関連の記事など随時掲載を心がけています。

◎印刷依頼

完成までは何回か校正作業のやり取りがあります。校正が終わると印刷になります。印刷は大田福祉工場に依頼し、連絡は出張所職員が担当します。

◎部数と配布

発行は、年4回(3・6・9・12月)で、1回の発行部数は二万五千百五十部です。配布先は馬込地区の自治会、町会が主で、自治会、町会には戸別配布の準備や配布でご苦労をかけています。また、馬込地区内の学校や大田区公共施設などにも届けています。



紙面B



紙面C



紙面D

◎これからの課題

この伝統ある情報紙も幾つかの課題があります。

一つは版型・レイアウトの問題です。現在、「わがまちまごめ」通常号はB4判の表裏2ページ1色印刷ですが、最近の印刷物はA4判が標準となり、町会への配送などで他の物と不揃いとなりました。ただ、A4にすると現在のB4サイズより小さくなるため、文字の寸法を小さくするか、内容を減らすか選ばなければなりません。

レイアウトも現在のものは、松本勇初代編集長の、「PTAの広報紙を作った経験のある方ならありがたいが、町会の方、主婦の方、どなたが参加されても編集が出来るよう、なるべく簡単にしたい」との編集方針で出来上がりました。読者の方から、「もっとデザインを工夫したらどうか」とのお声をいただいたこともあります。

今後ともいろいろと検討していかなければと思います。最後に、最大の課題があります。編集委員の増員です。無報酬ですが、興味のある方、経験を問いません。参加をお待ちしています。

以下毎週2～5回編集会議
令和7年1月6日 第6回最終編集会議

1月8日 完成原稿を実行委員に送付
印刷所に原稿持ち込み(入稿)
1月14日 初校出、印刷所より受け取り、初校校正会議
1月15日 印刷所に初校戻・届
1月20日 二校校正会議・戻
1月27日 最終校出・校正の終了
2月1～12日印刷(福祉工場)
2月13日 完成、受取に行く
2月14日 出張所が町会へ配送
3月1日 発行

【135号】(夏号)

3月3日 第1回編集会議
以下毎週2～5回編集会議
4月7日 第6回最終編集会議
4月9日 完成原稿を実行委員に送付
印刷所に原稿持ち込み(入稿)
4月14日 初校出、印刷所より受け取り、初校校正会議
4月16日 印刷所に初校戻・届
4月21日 二校校正会議・戻
4月30日 最終校出・校正の終了
5月1～15日印刷(福祉工場)
5月15日 完成、受取に行く
5月16日 出張所が町会へ配送
6月1日 発行

6月中～下旬に、令和7年度合同委員会開催の予定



今も続く馬込の農業

―馬込で育てた作物と支える人々―



大都市に住んでいるとつい忘れがちな農業ですが、かつては「農は国の基」と言われるほどの基幹産業でした。昨年夏ごろに起きた「米不足」は、私たちに現代日本の食糧問題が突きつけられたのかもしれない。また、農業の現状についても目を向けるよい機会になりました。

江戸時代から馬込は都市近郊の農村として、大都市江戸―東京の住民の食を支えてきました。時代とともに馬込も都市の一部となって、多くの林と畑は消え、住宅地に変わりましたが、今も農業に携わっている方もいらっしやいます。馬込の農業の現在について取材しました。



南馬込の城下君子さんは、今もご自宅近くの畑で、季節の野菜を作っ

ています。青果市場へ出荷はしていませんが、西馬込の農協（JAハウジング店前）に直売用の物を届けています。

以前は農家として家族全員で農作業に取り組み、朝早くに収穫した作物を市場まで、昔はリヤカーで運んでいたとのこと。馬込の市場は、現在立替工事中の、スーパー文化堂の所になりました。

馬込の小松菜は評判がよく、年末になると高値となる築地市場まで馬込から運んで行ったそうです。馬込特産の「半白胡瓜」や「三寸人参」も作っていて、虫のつきやすい人参には当時は強い農薬を使っていたため、畑に赤い旗を立てて近づかないように知らせたりする苦勞もあったとのこと。

中馬込の波田野憚さんも、現在約250坪ほどの畑に、季節に応じてカリフラワー、ブロッコリー、大根、なす、半白胡瓜、人参、トマトなど、いろいろな野菜を作っています。今から二十年ほど前までは大田市場まで、大田市場の出来る前は蒲田まで持って行きましたが、当時はまだ波田野年成さんや城下さんたちも市場に出していたそうです。朝五時に大田市場に持って行き、帰宅は六時半ごろでそれから朝食でした。

夏にも冬にも収穫出来て作りやすい小松菜を主な野菜として、一年を通して出していました。小松菜にも沢山の種類があって、虫の付きに



くいものや気候に左右されないものなどいろいろと試しながら種を買い求め、挑戦していました。冬は、寒さ対策に霜除けの笹を畑に立てていたそうです。

今作っている季節毎の野菜は、週4日、火曜から金曜日に、西馬込のJAハウジング店前に置いて売っているとのこと。

お二人とも、現在、市場に出すほど作ってはいませんが、自宅で消費しきれない分を、JAの店頭に出しています。「皆様に喜んでいただいているので、今後も身体の動く間はもうしばらく野菜づくりを続けていきたい」と話されていました。

運が良ければ、店頭で馬込特産の「半白胡瓜」や「三寸人参」にも出会えるかもしれません。

馬込情報

◎特殊詐欺撲滅キャンペーン
令和6年10月19日に南馬込五丁目

の長遠寺駐車場で開催されました。最近ますます巧妙さを増す特殊詐欺。馬込地区からも大きな事案が発生しています。漫才コンビのキラークンテンツのお二人が巧妙な語り口で掛け合いを始めると、会場は大爆笑でした。また、〇×クイズなどもあり、いろいろな手口や防止策を学びました。



◎浅草線馬込車両基地の公開

昨年11月30日に東京都交通局馬込車両基地（南馬込⁶³⁸）で「都営フェスタ2024 in 浅草線」が開催されました。

このイベントは2004年から一年おきに開催されていますが、コロナ禍の



数年は開催が見送られ5年ぶりの一般公開となりました。（2022年の開催はインターネットでの抽選入場）当日10時開門の前にすでに長蛇の列ができました。

中では列に並べば体験できる車両洗浄体験や車両撮影会。あらかじめインターネットから申し込んで抽選で体験できる運転台見学など大盛況でした。他に相互乗り入れをしている京急や京成、都営バスのグッズ販売コーナーなども人垣ができていました。次回は2026年の秋に開催の予定です。

◎龍子記念館（TEL 3772・0680）

●名作展「川端龍子の描き出した世界 生涯140年を迎えて」令和7年3月29日（土）～6月22日（日）

◎熊谷恒子記念館（TEL 3773・0123）

●かなの美展「熊谷恒子がたどる近代短歌 正岡子規や長塚節を通じて」令和6年12月21日（土）～令和7年4月6日（日）

◎馬込図書館（TEL 3775・5401）

●馬込文士村教養講座「馬込の文士・画家が見た大森」3月22日（土）13時半～15時半。要申込

●第10回馬込文士村資料展「馬込文士村の詩人たち」3月22日（土）～25日（火）

●こどもの読書週間イベント4月23日（水）～5月12日（月）

◎郷土博物館（TEL 3777・1070）

●企画展「博物館 まなびの広場展 ―三団体の活動と学習の成果（みり）―」1月21日～3月23日

編集後記

三月になり春の訪れを感じるようになって、大桜まつりもすぐです。今年も多くの人が集まり、にぎわうことでしょう。これからも「わがまちまごめ」では馬込の魅力を伝えていきたいと思っています。